

2021  
秀作

## 第19回「金融と経済を考える」高校生小論文コンクール

# 私の働く意味

宮崎県・宮崎県立日南振徳高等学校 3年 岩満 愛莉

高校2年生の時、授業で「働くとは何か?」「働く意味とは?」についてクラスの皆と考え、討論したことがある。周りから出たのは主に「お金のため」「生活するため」の二択だった。私の学校では長期休暇以外はアルバイトが禁止で、部活動に力を入れていたため働いた経験が無く、考えてみてもぼんやりとしか浮かばず皆と同じ意見に賛同していた。

意見を聞いたうえで先生が話したことは、働く大変さと給料の使い道や生活費についてだった。将来それぞれの職業に就き、働いてお金をもらう。職業によって給料の額は違うが、詳しく生活費の分配を黒板に書いていった。家賃、食費、通信費、大人になると払うものが増える税金、子供が生まれることも想定すると教育費や1人分に掛かる一生分のお金が1億8,000万円と書かれ、その膨大な金額を稼ぐことに不安を抱いたと同時に、今まで何不自由なく育ててくれている両親はとても偉大なのだと知ることができた。私の家庭は一般の家庭よりも弟や妹が多い。つまり生活費や他の教育費まで全てにおいて何倍もの金額を費やすことになるのだ。だが18年間生きてきて自分が貧相だなと感じたことは無い。習い事も部活動も勉強も好きなようにしなさいと選択させてくれた。これは決して当たり前のことではなく、挑戦心を尊重してくれたのだと心から感謝するきっかけにもなった。そして感じるだけではなく実際に体験しなくてはいけないとも思った。働く意味とは、お金のためや生活するため以外にも答えられる選択肢があるのではないかという好奇心が生まれた。

高校2年生の冬休みに部活の連休を活用し、学校にも正式に許可を取りアルバイトを申請した。働く先は、日南市の中央とも言える吾田のスーパーだ。目の前には小学校があり車通りも多く地域住民なら誰もが利用するであろうスーパーで、私も家族とよく買い物することが多い。何故このスーパーにしたのかというと、家庭に届けるためにどのような工程が生まれ、工夫をしているの

かに興味があったから。従業員の方々と同じ場に立ち、直接この目で確かめ、体験するべきという考えに至った。

12月の終わりに差し掛かった店内はクリスマスと大晦日で来客数も増え売り上げが伸びる重要な時期である。一番最初に与えられた仕事はお惣菜の製造である。年配の従業員の方々と共にそれぞれの製造場所につき、大量のノルマをさばいていく。食品を扱うため、衛生面に気を付けながら淡々と流れ作業をこなしていかなければならない。一見単純な仕事に見えるが決して一人では惣菜を完成させることができないことを知った。最初は無言で作業を進めていたが「少しの間、頼むね」と一人になった瞬間、他に何をすればよいか全く分からず行動できなかったのだ。戸惑ってしまい他の厨房を覗くと、コミュニケーションをとりながら一つの作業に固まらずにお互いをフォローしあう光景を見て自分に欠けていたものを見つけることができた。自分だけで無く、相手の仕事も把握し人手不足でも問題なく効率的に作業を進められる能力はどの職場においても求められる人材だと気づくことができ、それからの仕事は積極的にコミュニケーションをとり合いながら何が必要かを考え行動した。すると従業員の方との間に会話が生まれ、明るい雰囲気になった。一緒に仕事をするうえで大切なのは作業の効率化だけでなく、よりよい人間関係であると感じた。後半からは忙しいのと楽しい感情ばかりであつという間にノルマを達成することができた。ここまで充実感を感じるとは思っておらず、初日は家に帰ると疲れがたまって動けなかった。

2日目から1週間は店内のベーカリーコーナーでのレジを担当した。初めての接客の業務に緊張しながらも接客担当の方が丁寧に指導してくださりお客様への声掛けやお金の扱い方から実際に行った。

始めたばかりは失敗も沢山経験した。パンが包装されていないため、20種類以上の商品名とバーコードの位置を覚えられずレジでお客様を待たせてしまったり、指示されるのを待ってしまったり。一番悔しい経験をしたのが、午後12時あたりの子供連れの方や高齢の方まで幅広く大勢が来店される時間帯に、レジ打ちが遅く行列ができるのを確認すると焦ってしまい、その様子を見たお客様から「ゆっくりで大丈夫だよ」という言葉を掛けていただいたことだった。

しかし、その言葉にとっても救われ、丁寧に接客することを心掛け一人でレジ

の仕事をこなすことができた。

何故焦っていたのをお客様に感じ取らせてしまったのか自分を振り返ってみると、余裕をなくして表情が常にこわばっていたから、という答えに辿り着いた。自分が客側の視点に立った時に必死になった表情で接客をされるとほとんどの人が心配や不快といった感情を抱くだろう。あの時、一言声を掛けてくださったお客様に感謝の気持ちと、気を使わせてしまった申し訳なさが残った。

沢山の失敗を通して、従業員としての責任感を改めて認識し最高の接客を目指した。

ある日、車いすを利用した高齢のお客様が来店した。介助する人もおらず、トングでパンをつかむのに苦戦していたのでそばに駆けつけ「お手伝わせていただいてもよろしいでしょうか」とお声掛けしたところ快くトレーとトングを任せていただいた。一緒にパンを選び少しお話をした後、私がおすすめのパンを紹介すると「じゃあ食べてみようかな」と購入していただいた時は本当に嬉しくて初めてのやりがいを感じた。

また、友達や両親がパンを買いに来てくれたり、常連さんが「頑張ってるね」と声を掛けてくださったりと応援の声が多く全てが私の力となって辛いことも楽しいことも最後までやり遂げることができた。

バイト最終日に従業員の方々にお礼を伝えると「ずっと働いてくれてもいいんだよ？」と笑い交じりに寂しがってくださった。初心者で何も分からなかった私に丁寧に指導してくださり、失敗をしても優しくフォローしてここまで導いてくださったことに感謝の意を伝えて私のアルバイトは終わった。

実際に働いてみて気づいた大切なことは、コミュニケーションをとること、臨機応変に対応すること、笑顔を忘れないこと、責任感をもって行動すること、ミスをしてもしすぐに切り替えて次に活かすことの五つである。中でも表情についてはこんなにも影響があるとは知らず、大きく成長するきっかけになったと思う。

何故、働くのか。私が行き着いた答えは他者貢献のために働くということ。お金のためや生活のためというのも勿論あるのだが体験を経てたくさんの方々と関わり支えられていることや求められていることに幸せや充実感を感じることを知った。このことは、お金のためや生活のためと同じように大きく立派な

価値があり、私のように誰かの役に立ちたい、貢献したいと考えて働いている人も少なからずいると思う。もしかしたら、このことは善意たらしく聞こえるかもしれないが、働く意味に正解は無いので人それぞれが違う目的があるほうが面白いと思う。

これから社会人になり働く時には自分で見つけた三つ目の選択肢を心において人に幸せを届けられるように精一杯尽くしたい。

